

研修報告 F班2グループ 跳動

テーマ1：責任ある情報を公表するための職員の役割

テーマ2：学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

【課題認識】

テーマ1、テーマ2についてそれを実現するためにはどのような段取り、組織体制が必要になるか。また、教育力の向上をするためにICTをどのように活用することが出来るのか。

大学を取り巻く環境が日々、時代と共に変化している中、私たち職員は、学生のため、保護者のため、社会のために、いかに教育の質を高めるか、という観点をもとに議論を展開した。

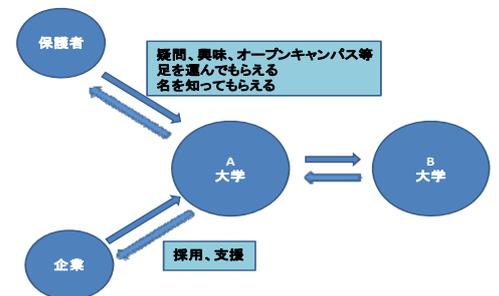
私たちは、教務課、総務課、就職課、学術情報センター、と様々な所属部署であり、経験年数も短いメンバーの中、様々な視点から考察した。

【討議内容】

テーマ1：責任ある情報を公表するための職員の役割

・情報を公表する意義、目的を考える

大学の実態・現状を公表することにより、社会に対する説明責任を果たす。公表する内容はプラス面だけではなく、マイナス面も公表する。マイナス面については、現在大学側が取り組んでいるものも併せて改善策を公表するがポイントである。この公表により、大学は外部（企業・保護者・機関・地域社会・OB・OG・学生）から評価を受け、その評価を参考に従ってさらに改善をし続ける。また、情報の公表は生徒（受験生）が大学を選ぶ基準になると考えられ、大学運営の資金源でもある受験者数増加に伴う受験料増加・確保にも繋がる。マイナス面は隠してしまいたいところだが、それをあえて公表し、改善策を打ち出すことで大学の魅力へと繋がり、更には教育力向上や改革となる。また他大学との差別化を図ったオリジナリティが生まれる、と私たちは考えた。



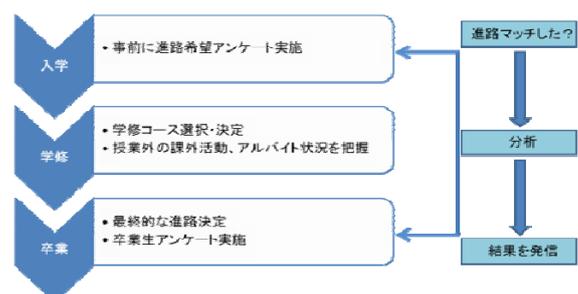
・情報公表の現状を知る（現状認識）

情報を公表する意義、目的を考えたらうで、私たちは大学の在り方について討議を行なった。現代の大学の在り方は競争し合うことも必要かもしれないが、『大学同士で連携し、共存し合う』ことが今後大切になると考えた。第三者（JABEE等）から受けた公正な評価をもとに、マイナス面に対する取り組みを公表し、その改善策等の情報を他大学と共有する。その情報を私たち職員が収集・整理し、発信していくことが互いに大学の存在意義を高め合い、大学業界全体の盛り上がりにも繋がるだろう。また、公表することで保護者に興味・疑問を持って貰う事ができ、オープンキャンパス等に足を運んで貰え、もしくは名前を知って貰える。評価内容によっては企業から支援を得られる場合もあり、学生の採用に繋がると考えられる。

・学士力・教育の質のためには

《問題点》

- * 大学の中（各部署）で情報が縦割りになっている
- * 横の繋がりが少ない



《提案》

『学生カルテの作成』

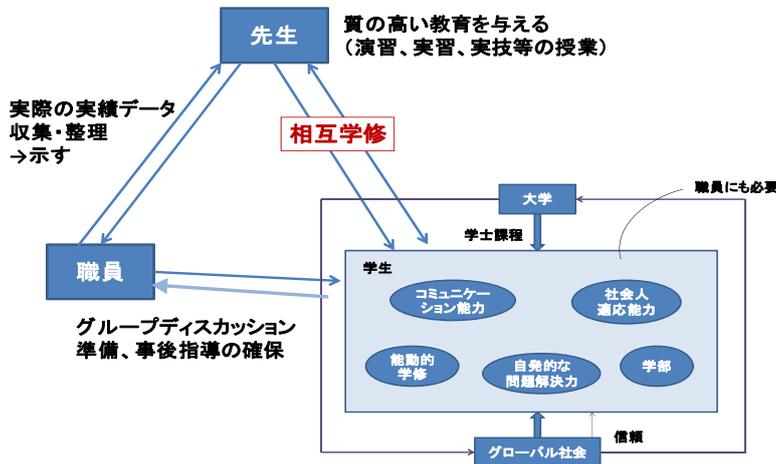
- ①入学前から進路希望アンケート等をとる。(入試課)
- ②コースの選択・決定、課外活動・アルバイト等の把握(教務課・学生課)
- ③卒業後のアンケート等最終進路(就職課・学生課・教務課)

各部署間で連携してカルテを作成し、毎年繰り返し集計し、最終的に受験生が「この大学でどのような進路に進んでいけるのか、どれだけの人々が最初希望した進路に進んでいったのか」を見ることができ、大学選びの基準のひとつとなる情報を公表する。毎年繰り返し集計したデータであるため保証された情報となり、また学生のために各部署間で連携した情報交換を図る。これにより、もし①と③の間でミスマッチが発生した場合は、②も含めて原因を分析し、改善し、質の向上を図る事ができる。

テーマ2：学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

・教育の質的転換を行うために必要な準備及びICTの活用方法

グローバル化が進む現代で社会が大学に何を求めているかを考えた。



社会が求めている能力とは
 ・コミュニケーション能力
 ・社会人適応能力 等
 これを実現するためには学生と教員間の相互学修が特に重要必要と考えた。

ここでの相互学修とはグループディスカッション、演習・実習・実技等の、双方向の体験型学修を指す。

今まで一方向型学修を行っていた先生へ実績データを収集・整理し相互学修の重要性を示す。

学生は事前学修が必要となり、より勉強時間を増やすことができる。職員はICT(eラーニング等)を活用し資料提供や事前学修のサポートを行い、より円滑な授業運営ができるよう支援する役割を担う。先生には質の高い教育を与える場を提供し、学生には学修意欲を向上させるよう努める。

まとめ

時代の流れに職員がついていき、変化に合わせていく必要がある。

教職協働で教育の質の向上を目指すことが重要であり、そのためには情報の公表が不可欠である。情報の公表にICTを活用し、教育の質的転換を行う。どんな情報でも公表するのではなく、収集・整理し、保障された保証のある情報でなければならない。よって職員の意識改革やスキルアップも必要である。

大学の在り方を改めて考えさせられる講習になり、今後働く中で、学生のため、社会のために職員も向上していく必要があると感じた。また他大学及び様々な部署で意見交換、情報交換することができてよかった。この講習を活かし他大学と共存し合い、学生にとってより良い教育環境づくりのために提案し、問題改善に努めたい。

